

1387

二三 方島本島守備隊空襲記録 洋報

昭和二年十一月二日
大島本島守備隊
(奄美大島)

②

六五作經由第六號

球三四口警第三號

大島本島守備隊空襲詳報提出件報告

昭和十年一月二十五日

球第二七四口部隊長

球第一六一六部隊長殿

首題ノ件別冊ノ通リ提出ス

FcA

陸



大島本島守備隊空襲詳報

大島本島守備隊

一月二十二日

曇

北日 出七五 日没一七五三
西ノ風 五 米

一 戦闘前ニ於ケル彼我ノ形勢ノ概要

守備部隊ハ一月二十一日敵機動部隊近接シ空襲ノ虞レアリ

タルヲ以テ丙號戰備ニ就クヘキ軍命令ヲ受領シ直チニ

敵ノ空襲ニ對シ監視警戒ヲ嚴ニシ且一月二十二日〇六四九

沖繩本島空襲警報發令ヲ受領シ敵機撃墜竝ニ退

避準備ヲ完了シ戰備作業ヲ續行シツヽアリ

〇八五五大島海軍防備隊ヨリ曾津高崎基突一七〇度

九〇料ヨリ敵機ラシキモノ侵入セリトノ通報ヲ受領ス

守備隊長ハ〇八五五獨斷ヲ以テ大喜地區ニ對シ空襲警報ヲ

發令ス

各隊ハ計畫ニ基キ對空監視ヲ嚴ニスルト共ニ對空射撃準備

備ヲ完了ス

一 戦闘ニ影響ヲ及ビタル氣象地形及佳ノ状態
 天氣曇リ雲量多ク雲高一千五百米ニシテ北西ノ風五米ニシテ
 飛行機ノ發見及識別ハ一千五百米以上ハ困難ナリ
 三 彼我ノ兵力其他

ノ敵ノ兵力

第一次空襲

自一〇九一〇敵艦載機小型 五機

第二次空襲

自一五三六敵艦載機小型 七機

主トシテ船舶ニ對シ爆彈投下及機銃掃射ヲ行フ

二 敵ノ戦法

敵ハ高度千米以下ニシテ急降下ヨリ爆彈投下並ニ

機銃掃射ヲ實施セリ

三 敵ノ使用セル兵器

小型機ニヨル小型爆彈並燒夷彈投下及機關銃掃

射ナリ

陸軍

々我々使用セル兵器

三八式野砲(高射設備)

四 各時期ニ於ケル戰鬥經過關係部隊ノ動作及連絡施設状態

敵機侵入状況別紙要圖ノ如シ

第一次空襲

〇九二〇笠利北西ヨリ敵艦載機小型五機名瀬北方ヨリ

二編隊ニ分レ大島本島ニ侵入ス

〇九二六一隊(三機)ハ名瀬上空ニ來襲シ名瀬港外ニ

碰礁中ノ丹後丸極洋丸及名瀬港碇泊中ノ機帆船

ニ對シ爆彈六發ト機銃掃射ヲナス(被害、戦死一機帆

船船長ニテ軍属)外ナシ

〇九三三一隊(三機)ハ小湊沖ノ機帆船一隻ニ對シ爆彈一發

機銃掃射ヲナシ南下〇九三五伊須灣沖ヲ航行中ノ機

帆船一隻ニ對シ爆彈一發ト機銃掃射ヲナシ小湊海峽東口上空

ヲ南下ス一〇〇五再ヒ大島海峡東口ヲ北上皆津崎沖ヲ航
 行中機帆船キヲ丸ニ爆裏ヲ加ヘ上昇中皆津崎砲台
 ハ高射代用野砲ヲ以テ射裏命令中セアリシモ敵機ハ東
 北ニ遁走セリ(被害員傷者二名(海軍機帆船乗組軍傷他々)
 一隊(三機)ハ〇九四燒内上空ニ來襲シ旋廻遊泊中機帆船ニ
 而爆裏シ雲上ヲ旋廻シ大島海峡西口上空ニ來襲シ大島海
 峡西口航行中機帆船ニ爆裏シ〇九五北西ニ脱去ス

第二次空襲

一五三六火島海峡西口曾津高崎南方ヨリ敵艦載機小
 型七機火島本島ニ侵入ス
 一五四四名音上空ヲ通過一五四七名瀬上空ヲ通過東ニ進行
 一五五七笠利上空ヲ通過南西ニ進一五五九赤尾木上空ニ
 未襲シ爆裏機銃掃射ヲ行ヒ南ニ進行シ一六〇三皆津崎
 沖下ニ退去ス請島東方海上航行中機帆船二隻

ヲ爆轟南方ニ脱去ス

赤尾木ハ被害ナシ 請島東方海上ノ機帆船ニ隻ニ爆彈命中

ニ隻共炎上沈没ス

五 戦後ニ於ケル彼我形勢ノ概要

守備隊ハ益々整衰ヲ嚴ニスルト共ニ戦備補強ニ勉ム

六 地方住民ノ状況

(一) 地方住民ハ在郷軍人及警防團ガ警戒配備ニ就キ万全ヲ期シ一般民ハ各自家ヲ空ケ谷地ノ洞窟内ニ待避セリ

七 齟齬過失其ノ他將來ノ参考トナルヘキ事項

(一) 敵機來襲飛來ノ位置我對空射撃ノ有効位置ニアラ

サリシ為一機ヲモ衷墜シ得ス

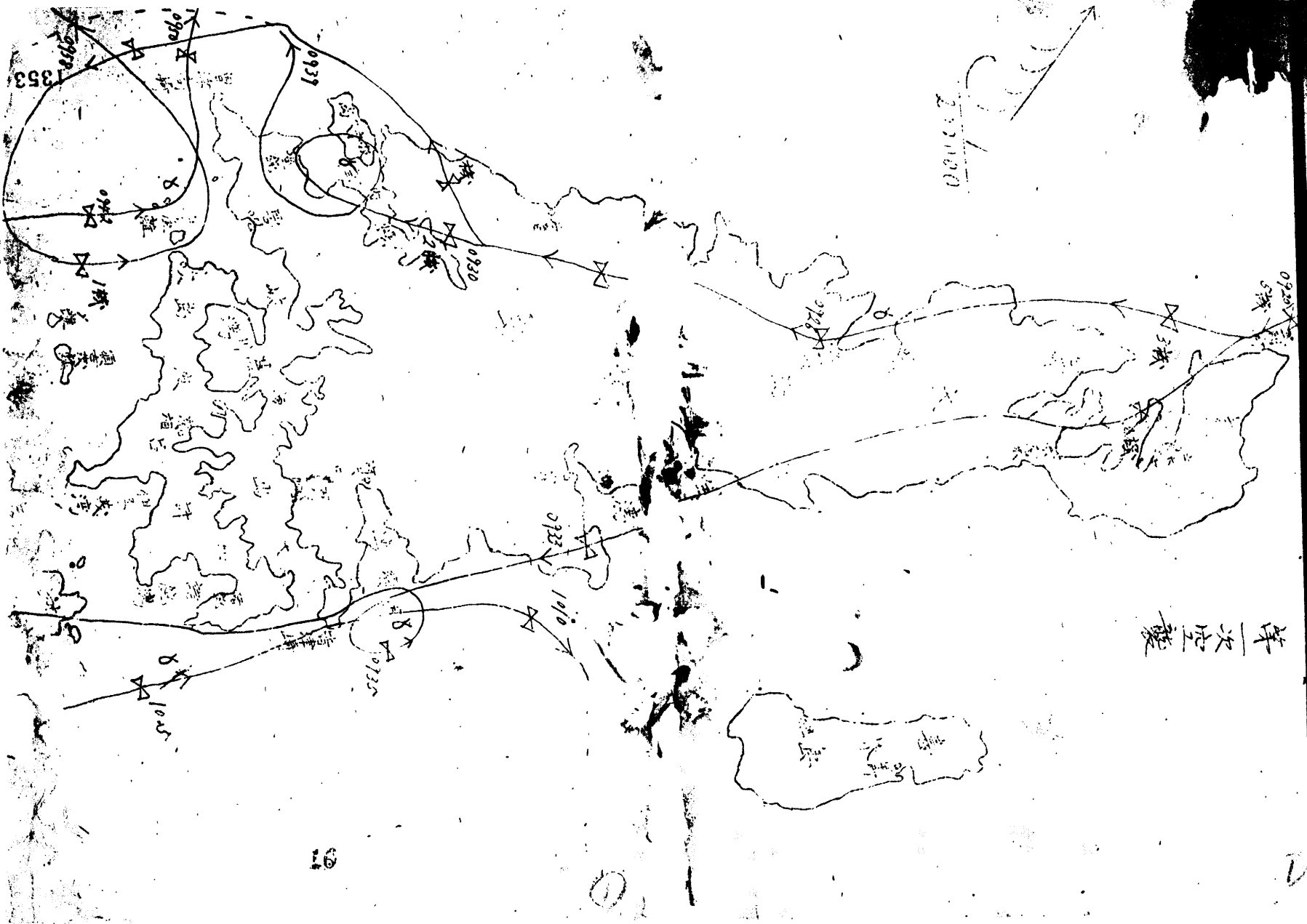
(二) 陸軍ニ於テ被害無キハ連絡ノ通報ト洞窟式待避設備アル

ニ依ルモノト思考ス

(三) 海軍ノ電波整齊機並民防空監視隊ノ敵機捕捉発見

陸軍

及連絡迅速ハ部隊戰鬥ニ寄與スル處大ナリ
 八本日ノ射耗彈藥尤ノ如シ
 三八式野砲九四式榴彈
 一發



第一次空襲

2

第二次空襲

